社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和06年03月25日

計画の名称	豊かな自然景観を活かしたにぎわいあふれる多目的広場づくり														
計画の期間	令和０２年度　～　令和０３年度　(2年間)												重点配分対象の該当		
交付対象	可児市														
計画の目標	可児市の北西部に位置しており、予定地北側は木曽川左岸に面し、豊かな緑と良好な景観を活かした、あらゆる世代が憩いの場として利用できる広場の整備を実施するとともに、 公園広場を広域避難場所として災害時の防災活動拠点に地域防災計画で位置付け、災害に強いまちづくりを目指す。 また、地域の歴史や自然資源を活用して市民や来訪者に親しまれるかわまち空間を形成し、その交流拠点として公園広場を整備する。														
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	650	A	650	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%		

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2当初		R3末
1	広域避難場所の収用人数　令和2当初　0人　⇒　令和3末　16,500人			
	防災活動拠点の広域避難場所として、利用可能面積／1人当たりの必要面積 広域避難場所の収用人数　令和2当初　0人　⇒　令和3末　16,500人	0人分	人分	16500人分
2	一日利用者数　令和2当初　106人　⇒　令和3末　798人			
	利用者数の計測 一日使用者数　令和2当初　106人　⇒　令和3末　798人	106人/日	人/日	706人/日

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	

案件番号：　0000549276

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） R02	R03	R04	R05	R06	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	可児市	直接	可児市	－	－	土田渡多目的広場整備事業	公園面積　A=3.8ha　多目的広場、園路整備	可児市	■	■				590		－
	A12-002	公園	一般	可児市	直接	可児市	－	－	土田渡多目的広場整備事業（５か年防公）	災害時に広域避難場所となる防災機能を有する公園整備 公園面積　A=3.8ha	可児市	■	■				60		－
											小計						650		
											合計						650		

案件番号：　0000549276

事　後　評　価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 本市、総務部・市民文化部・建設部内の組織にて評価を実施	事後評価の実施時期 事業終了後 公表の方法 可児市公式ホームページ
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・土田渡多目的広場の整備の結果、一時避難場所機能が増加した。 ・多くの世代が来園しており、公園広場としての賑わいが生まれた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○特記事項（今後の方針等）	
開園してから時間が経過するにあたって、公園の認知度が上がってきており、週末には定期的にキッチンカーの出店等の賑わいが出てきている。 今後は、イベント等の開催を数多く行い、市民に本公園の魅力を認知していただき、来園者の増加に向けた取り組みを行っていく。	

案件番号： 0000549276

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最　終 目標値	16500人分	
	最　終 実績値	16500人分	
2			
	最　終 目標値	706人/日	計測日が平日で、グラウンド利用者が少なかったが、目標値・実績値が概ね同数である。休日には、公園来園者数・グラウンド利用者数が増えるため、目標値を十分達成していると判断できる。
	最　終 実績値	694人/日	